

伝播

とある霊場の洞穴で
青年とその両親が
唱え始めたお経は
遙かな地底より朗々と
響きわたるようであった

本堂の前で
少女とその両親が
教本を手に読み始めたお経は
驚くほど下手であったが
純なるものが溢れ出ていた

大師堂の鐘鳴らし
息子と二人静かに手を合わす
「どちらのお経もありがたかったね」
手を合わせたまま息子が呟いた
その言葉がお経のようだった

今はあの時になったその時の
祈りの伝播は
今も時を超え彼方より
来たる明日を
切り拓いてくれる